

地域における事前対応型家畜防疫体制の構築：伊那

家畜保健衛生所 杉本和也

本県では2013年度までの3年間、文部科学省の「社会システム改革と研究開発の一体的推進プログラム」(文科省事業)に参画し鳥インフルエンザ対策を推進。当所では今年度、ハード及びソフトネットワークづくりをさらに進めるため、電子機器類のアクセサリ、発泡消毒用物品などを整備するとともに、県機関、市町村などとも連携を強化。一連の取組成果検証のため11月に上伊那地域家畜防疫演習を実施。今年度は特に広域的な情報共有を課題設定。演習は①発生想定農場への立入、②農場との動画の共有、③地理情報システムなどによる地点情報の共有と制限区域の設定、④現地対策本部設置の演習、⑤協定協力獣医師の技術研修、⑥患畜等殺処分方法の実習、⑦雨水利用車両発泡消毒の実演などを一日で包括的に実施。当地では、文科省事業終了後も、ハード・ソフト両面の整備と家畜防疫演習を通じ、事前対応型家畜防疫体制構築の取り組みを継続中。